



昨年度からのコロナ禍により、急速に普及した情報交換やコミュニケーションのデジタル化により、オンライン会議、テレワーク、リモートワーク等、情報通信技術を活用した方法が取られています。

一万人市民委員会の活動においても、オンライン会議やリモート調査等が多くなってきました。

私も何回かのオンライン会議に参加してみ、対面とは違った印象を持ちました。

オンライン会議は、画面を通じての応対なので、相手と会う緊張感やストレスが少なく、また、話の脱線や無駄話も減るので、会議を長引かせないメリットがあります。その反面、会議の途中で音声途切れたり、動きが止まったり、雑音が入ったりと不具合が生じることもあります。

それに対して、対面会議は、相手の表情や反応を聞きながら話を進めるので、意思疎

コロナ禍での一万人市民委員会の活動を考える

～ リモートワークで、思ったこと、感じたこと ～



代表理事
佐藤 年夫

通がしやすく、発言や議論もタイミングを見ながらできるので、やりやすい面があります。

どちらのやり方も一長一短があります。

このため、双方の利点を上手に組み合わせ、新しい形のコミュニケーションが求められていると思います。また、昨年10月実施の「みやぎ介護人材を育む宣言認証制度第2段階確認調査」のことです。

この調査は昨年度から始められた新しい調査制度です。私が担当したのは、コロナ禍のため、本来の訪問調査ではなく、事業者が提出した書類を精査する書類調査の方

式に変更されたものでした。

対面調査ではないため、資料入手に手間のかかる仕事でしたが、事業者のホームページから資料を検索するなどした新しい形の調査を経験しました。

今後、コロナが収束しても、コミュニケーションのデジタル化は一層進展すると考えられます。一万人市民委員会としても、今後、新しいツールを使いこなしたり、適応していくことがますます必要になると感じました。

コロナ禍での調査活動を振り返る!!

今回の調査はフェイスガード着用、検温票持参、入退出時の手指の消毒など調査員の対応もさることながら、受審側の各事業所とも最善の感染対策をとっており、訪問者に対し検温、消毒、コロナ対策調査票の記入の要求や入居者や利用者の居住空間に接しないような動線を確認し、調査する部屋への案内があったり、アクリル板の設置や調査している部屋の換気等細心の注意を払い、聴聞・目視確認事項に

ついては写真やスマホ・タブレット等デジタル機器活用による補完を行いながらの調査でした。

調査は①訪問調査②リモート調査③全書類郵送法の三つの形態で調査を実施し、それぞれ訪問調査 446 (59.4%) 事業所、リモート調査 111 (14.8%) 事業所、全書類郵送調査 194 (25.8%) 事業所、合計 751 事業所でした。

訪問調査

446 (59.4%) 事業所

「入居者との食事」では、

入居者の状況、食事の雰囲気、職員の介護要領等が確認できなかった。

「職員からの聞き取り」では、

①理念を理解し、実践に活かされているか？

②ホーム全体が話しやすい雰囲気か？

③職員の苦労話

④入居者との日常の様子

等の確認する相手が管理者等に限られ、職員等の生の意見を直接聞くことができなかった。

「施設内の見学」では、

①共用空間（場所）の広さ・明るさ・装飾等・・・季節を感じながら寛げるか？

②トイレット、浴室等・・・利用者等が使いやすい又介護支援が十分できる造りか？

③避難経路の確保（整備状況）は？等について十分な確認が出来ないので今後検討する必要がある

リモート調査

111 (14.8%) 事業所

【意見が直接聞けない】

確認する相手が管理者等に限られ、職員等の生の意見、苦労話や、入居者との日常の様子を直接聞くことができなくなった。

【質疑応答の短縮に苦慮】

5時間の訪問調査からリモートでは2時間となり、質疑応答時間が短縮されたことにより、5時間でも足りない時があったのに、半分以下では非常に焦りを感じた。

【評価記載説明が難しい】

事業所の地域状況や施設内設備等について、これまでは調査前に事業所のある地域を見回したり、事業所内を見せて頂いていたが、今回は直接確認することができず評価内容の記述が難しくなった。

※メリット、デメリットとして、次の点があげられます。

①サブの調査員と手元でメモの交換を行い質問をスムーズ行う事が出来たことである。

②書類の焦点が合わず、はっきり読み取ることが大変だった事です。

③リモートはノイズやフリーズなどで、聞き取り難かった。

全書類郵送調査

194 (25.8%) 事業所

① FAX、電話による確認のため意思疎通が難しく、送付されてきた書類の不備や担当者の必要書類の確認不足に伴う漏れた分の再送付依頼等に時間を要した。

②移動時間が無い分効率的であり、冬季の路面不安定期間の調査方法としては良いと思う。

③調査項目ごとに確認方法を⑦聞き取り（電話確

認）①書面（FAX 確認）の事前区分が必要と思う。

コロナが収まればこのような調査方法は取らないと思われませんが、昨今のペーパーレス化時代となり、紙代、コピー代、郵便代のことを考えれば、今後はパソコン等によるデータ送受信になることを願っています。

第20回通常総会が開催されました

特定非営利活動法人
介護の社会化を進める一万人市民委員会
宮城県民の会 第20回総会



世界で猛威を振るっているコロナウィルス感染拡大予防のワクチン接種が、県内でもやっと始まった去る5月27日、当会の通常総会が仙台市市民活動支援センターで開催されました。

仲野事務局長の開会のことばに続き、会員総数113名中書面表決提出者68名、総会出席者22名(理事15名、評価委員7名)の合計90名との報告を受け、総会成立が宣言されました。

佐藤年夫代表理事の「コロナ禍の生活や活動には、細心の注意をした予防徹底を望む」との挨拶に続き、議長に眞山若葉氏を選出、議事録署名人に團 順子氏、佐藤はるみ氏が選任され、議案の審議に入りました。



《表決結果》

- <第1号議案> 2020年度事業報告の承認
・賛成 90件 ・反対 0件 ・無効 0件
- <第2号議案> 2020年度決算報告の承認
・賛成 90件 ・反対 0件 ・無効 0件
- <第3号議案> 2020年度監査報告の承認
・賛成 90件 ・反対 0件 ・無効 0件
- <第4号議案> 2021年度事業計画(案)
2021年度活動予算書(案)
・賛成 90件 ・反対 0件 ・無効 0件
- <第5号議案> 定款の一部変更(案)
・賛成 90件 ・反対 0件 ・無効 0件
- <その他> 審議事項なし

以上の通り滞りなく審議が終了し全議案が可決され、議長の解任挨拶と閉会のことばで締め括りました。

事務局のE-mailアドレスが変わります!!

~~ichimannin@alpha.ocn.ne.jp~~

▼
ichi@ichimannin.com

「よろず」相談会がリニューアルされます!!

コロナ禍の現況を踏まえ、「よろず」相談会を電話・テレビ電話による、会員、ご家族、友人・知人がお持ちの生活全般、法律に係る困りごとなどに関する「なんでも」相談会に衣替えします。

※利用にあたっては、申し込み締め切り日は開催日の7日前としますが、それ以降でもありましたら、ご連絡願います。



生涯スポーツミニテニス

鹿又 智恵子

私がミニテニスを始めてからもう20年近くになります。自宅のすぐ目の前の小学校の体育館で練習をしていると言う友人の誘いで始めたのですが、こんなに長く続けることになるとは思いませんでした。

スポーツジムのように高額な入会金や会費がかかる訳でもなく、子育ても一段落し何かスポーツをしたいと思っていた丁度良いタイミングでした。それにあまり無理をせず頑張りすぎない元来の私の性分も幸いしたのかもしれませんが。

ミニテニスってあまり聞き慣れないと思いますが、仙台市には30チームほどあり総勢500名あまりの競技者人口です。10代から80代まで年齢層も幅広くまさに生涯スポーツですね。

チームでの練習の他に、他チームとの試合もあり勝敗数により1部2部間のチーム入れ替えが

あるのでそれも刺激と励みになります。

楽しむことがモットーと言いながら入替え戦などはつつい熱くなってしまうこともあります。

コートは通常のテニスコートの広さでダブルスで行い、ボールはビニール製で小さなビーチボールのようなものなので、自分に向かってくる速いボールをよけきれなくても命の危険はありません。

運動量はかなりなもので冬でも流れるほどの汗をかき爽快です。

身体を動かし汗をかくのはいいものです。シャワーを浴びた後のビールがたまらなくなる！これからの季節、一日も早くコロナが終息し安心してスポーツを楽しむ事ができる日が来るよう願う毎日です。

◆◆なんでも相談会のご案内◆◆

法律、成年後見関係の分野に限らず、会員やその家族、知人の方がお持ちの生活全般に関わる「困りごと」「悩みごと」などなんでも相談会です。

2021年(令和3年)7月から10月までの開催日程は下記のとおりです。

☆開催日程

- ・ 7月13日(火) 相談役 安田廣治司法書士
- ・ 8月26日(水) 相談役 武田貴志弁護士
- ・ 9月30日(木) 相談役 安田廣治司法書士
- ・ 10月21日(木) 相談役 武田貴志弁護士

【編集後記】

一万人の調査員として1年目を終え、ほっとしていた矢先に、大先輩から「編集委員を引き受けて欲しい」との打診がありました。

調査員としてまだ右往左往している状態だったので断りたかったのですが、調査の際にお世話になったこともあり、引き受けざるを得ませんでした。

編集委員メンバーはベテラン揃いだったので、諸先輩の足を引っ張らないようにしながら、後ろからついて行っていました。前号(第137号)で調査員4名にインタビューをして記事にするページの担当を任せられました。

面識の無い方もいて不安でしたが、先輩が事前に電話をかけお膳立てをしてくれたお陰で、皆さん快くインタビューに応じてくださり、記事として纏め掲載することが出来たので、ほっと胸を撫で下ろしています。

自身の掲載記事を読み、「ありがとう」とお礼の電話をくれた方もいました。お礼を言いたいのは私の方なのに……。

感謝の気持ちでいっぱいになると同時に、やり甲斐を感じました。調査員の皆様の協力と諸先輩に背中を押してもらえたお陰で、編集委員として2年目を迎えることが出来ました。

微力ですがこれからも尽力します。(出口)



特定非営利活動法人
介護の社会化を進める
一万人市民委員会宮城県民の会

編集委員 兼平 幸雄 工藤 俊廣 曾根 務
出口 香 張間 佳代